

経営学部 福田尚加

私がハンガリー研修を通して一番大きな学びを得たのは人との対話である。私とハンガリーの学生は、言語が違う中、互いにどのように伝えたら上手く伝わるのかと考えながら、話す場面は多くあった。日本語の授業では、普段普通に使えている言葉一つ一つが、使う場面によって変形させて使わなければならないなど、日本語が非常に難しいと改めて思えた機会であった。日本語をどのように伝えればいいのか深く考えさせられ、こんなにも難しい日本語を学んでいるハンガリーの学生達は凄いなと尊敬することもできた。また会話をする中で、日本の文化やアニメに興味を抱いている人が多くいることを知った。アニメに関することは、日本人よりハンガリーの学生のほうが詳しく、ハンガリーに居ながら彼らからおすすめの作品を教えてもらい、私は代わりに日本の音楽を教えて日本の良さを少しは伝えられたのではないかと感じている。このような機会がなければ日本文化に対して向き合うことはなかったと考える。海外に行ったからこそ日本について伝えるうちに日本の文化がいかに素晴らしいもので、面白いものなのかを理解することが出来た。



日本語の授業で日本語を教える場面



テーマに沿ったスライドを一緒に作成

スケートと一緒にいったときは、簡単な日本語や英語でスケートのやり方を教えてもらい、言語の壁を越えた交流が出来たと考える。はじめてスケートに挑戦し、最初は全然滑ることが出来なかったが、優しく何度も教えてくれたおかげで、最終的には一人で滑ることができた。

全員で一緒にハンガリー料理を食べたときは、量の多さに驚いたが、この食事会を通してより一層仲良くなれたと感じた。この時にハンガリーの食べ物を食べながら、現地の食文化を学ぶことが出来た。トマト風味に煮込まれたとても大きいロールキャベツや日本より硬めのパン、グヤーシュスープ、とても大きいチキン、変わったパスタ、厚めのピザの上に掛かっているサワークリームなど、普段では食べることのできない食事を堪能することが出来た。日本と大きな違いは、水と魚と米だと思った。特に水は日本の水が軟水に対して、ハンガリーの水は硬水であるため、飲んだ感じも異なり、私の体には硬水は合わないことがわかった。魚も日本では海の魚がメインであるが、海がないハンガリーは鯉やナマズと日本ではあまり食べない魚を食べ、米ももちもちでなく、パラパラとした米を食べており、食文化は大きく異なっていると感じた。



スケートを教えてくれた学生



ハンガリー料理を堪能



パスタと子牛の煮込み



ロールキャベツとサワークリームたっぷりのチキン



グヤーシュスープ

他にもハンガリーの多くの観光地を訪れることができ、食べ物、言語、土地を通して日本との文化の違いを感じることができた。特にブダ城は日本にはないようなものだと感じた。日本とは違い、石作りであったり、高さが低かったり、敷地の中に教会があるなど日本にはない面白さを特に感じられた場所だった。それに加えて、夜の夜景はとても美しく感動した。国会議事堂も外見から非常に綺麗で、内観はそれを超える美しさであった。国会議事堂の中央にあった王冠のある広間では、1000年前の王冠が現物として残っていることに驚き、それを囲う銅像も凄いと感じた。このような歴史のある沢山の場所を訪れることができ、多くの知識を知れたのは現地学生のサポートがあったからだと思える。この経験から、私も日本に来る留学生に対してより手厚いサポートを行い、日本の文化や歴史を通して、もっとたくさんの事を伝えていきたいと改めて感じられた経験であった。だからこそ自分自身日本の文化や歴史についてもっと理解を深めていき、留学生たちがもっと日本を好きになり、また日本に来たいと思ってもらえるようなボランティア活動をしていきたいと思った。